

Ⅲ 真宗大学東京開校

25 真宗各学設立申請書控

1冊 紙本墨書 明治時代・明治32年(1899)～33年(1900)
大谷大学図書館蔵

東本願寺が創設した真宗大学、真宗京都中学、真宗東京中学などの設立申請書の控。明治32年10月、真宗大学は私立学校認可の願いを京都府知事の内海忠勝に申請、同年11月7日、私立学校令により認可された。

26 等位認定申請書類

(「真宗大学条例」のうち)

1冊 紙本墨書

明治時代・明治33年(1900)

真宗総合研究所大学史研究班蔵

明治33年2月、文部大臣の樺山資紀に等位認定を申請し、同月に認定された。等位認定とは、徴兵令第13条で、徴兵猶予された官立府県立中学校と同等以上と認めることである。

27 巢鴨村真宗大学ノ図

1枚 紙本墨書

明治時代(20世紀) 大谷大学図書館蔵

巢鴨に開校した真宗大学構内の平面図。敷地の総面積は6,830坪、建築総面積は831坪余りで、教場・寄宿舎・閲覧室・書庫・食堂など16の建物からなる。総工費は57,000円で、工事は大倉組(大成建設の前身)が請け負った。明治33年(1900)7月着工、翌年9月落成。

28 真宗大学附近五千分之一略図・真宗大学構内略図

1幅 紙本印刷

明治時代・明治34年(1901) 大谷大学博物館蔵

真宗大学の周辺図および構内の略図。開校当時の巢鴨村は、のどかな田園風景が広がっていた。近隣に巢鴨監獄や東京真宗中学敷地などが記される。本品は真宗大学の機関紙「無尽灯」6巻10号の付録として付されたもの。

29 真宗大学の位置に就いて

(「教界時言」第9号)

1冊 紙本印刷

明治時代・明治30年(1897) 大谷大学図書館蔵

東本願寺の寺務改正と教学刷新を訴える清沢満之が、明治29年(1869)に創刊した雑誌「教界時言」に掲載した論文。真宗大学の所在地について、京都・東京の両京での設置と東京設置先行を主張する。

30 真宗大学敷地購入校舎建築二関スル書類

1冊 紙本墨書

明治時代・明治32(1899)～33年(1900)

大谷大学図書館蔵

真宗大学東京移転の際の敷地購入・校舎建築に関する書類。清沢満之ら7人が建築掛に任命され、その用地は東京府北豊島郡巢鴨村大字巢鴨字宮仲(現東京都豊島区上池袋1丁目)に求められた。

31 「知進守退」碑拓本

1幅 紙本墨拓

原碑：明治時代・明治34年(1901) 大谷大学博物館蔵

東京開校を記念して建立された石碑の拓本。清沢より教育を受けた東本願寺第23代彰如(句仏)の筆になる。「知進守退」は中国北魏の僧曇曇の著作「浄土論註」の文である。石碑裏面には、第2代学長南条文雄による真宗大学の沿革が刻まれる。

32 真宗大学東京移転記念写真

1枚 モノクロ写真

明治時代・明治34年(1901) 真宗総合研究所

真宗大学の東京移転を記念して、関係者が京都市東山の太谷祖廟に参拝し、知恩院山門前で撮影された記念写真。「大谷の松吹く風の音は永く忘るゝことが出来ぬ」という歌が雑誌「精神界」に残されている。清沢のほか、後に大谷大学学長をつとめる南条文雄、関根仁応、曾我量深、曾我とともに近代教学の大成者とされる金子大栄、そして京都帝国大学教授で大谷大学でも教鞭をとった西洋哲学者の朝永三十郎らの姿が見える。

33 真宗大学移転開校式

(「無尽灯」6巻10号)

1冊 紙本印刷

明治時代・明治34年(1901) 大谷大学図書館蔵

明治34年10月13日、東京の真宗大学は開校式を挙げた。式典会場は図書館閲覧室で、初代学監(学長)清沢満之が「開校の辞」を述べた。ここで語られた清沢の言葉は今も大学の理念に受け継がれ、大切にされている。

34 毎学年各学科担任表

1冊 紙本墨書

明治時代・明治34～44年(1901～1911)

真宗総合研究所蔵

真宗大学の学科担任表。本科(宗門の須要に応じる学科を教授する)、予科(本科に入るための予備の課程)、各学年の学科担任者が記され、開校にあわせて教授陣の充実が図られたことがうかがわれる。

35 日誌

1冊(7冊のうち) 紙本墨書

明治時代・明治31(1898)～40年(1907) 大谷大学図書館蔵

真宗大学で記された日誌。明治36年(1903)6月6日には、初代学監(学長)清沢満之の逝去について学内の様子が記されている。真宗大学は臨時休校し、午前10時の出棺時刻にあわせた講堂での追悼会で哀悼の意を表した。

36 所化学籍

2冊 紙本墨書

明治時代・明治32(1899)～40年(1907)

真宗総合研究所蔵

真宗大学入学者の学籍簿。所化とは学生のこと。東京開校当時は予科97名、本科61名、研究院17名の合計175名が在籍していた。

37 所化心得并寄宿舎規定

1枚 紙本印刷

明治時代(20世紀) 大谷大学図書館蔵

真宗大学の学生の心得と学生寮の規則。学生の心得の第一は、「宗義を信奉し智慧をし、布教伝道の基を建つべきこと」と記される。学生の多くは構内の寄宿舎で共同生活を送った。

38 掛時計

1点 時計

明治時代(20世紀) 大谷大学博物館蔵

真宗大学時代に使用されていたと思われる掛時計。精巧舎(現セイコー)製。明治34年(1901)8月、実業家の玉塚栄次郎(初代)より寄贈された旨が記される。

39 真宗大学広蓋

1面 木製漆塗

明治時代(20世紀) 大谷大学博物館蔵

真宗大学で使用されていた式盆。背面に金字で「真宗大学」と記す。

40 西洋鐘

1点 青銅製

1903年製造 大谷大学蔵

明治36年(1903)の銘があることから、真宗大学時代に使用されていたと思われる。「ALSTON/1903/WEST HARTLEPOOL」という刻銘がある。



大谷大学博物館

Otani University Museum

「開館時間」10時から17時(入館は16時30分まで)

「休館日」日・月・祝、5月2日(土)(ただし4月20日(月)、26日(日)、29日(水・祝)は開館)

② 掛時計部分
明治時代(20世紀)
大谷大学博物館蔵

④ 清沢満之肖像(部分)
明治時代・明治42年
(1909)
大谷大学博物館蔵

大谷大学のあゆみ



HISTORY OF
OTANI
UNIVERSITY



と
KIYOZAWA
MANSHI
AND
SHINSHU
UNIVERSITY

清沢満之

2026年度 春季企画展

「主催」大谷大学 「後援」エフエム京都

2026 / 4 / 1 WED. ~ 5 / 9 SAT.

FREE ADMISSION

観覧料
無料



大谷大学



大谷大学

京都・大学ミュージアム連携

次回の展覧会 2026年度夏季企画展 秀吉軍記の世界で豊臣秀長になってしまった件 2026年6月2日(火)～8月2日(日)

大谷大学博物館

〒603-8143 京都市北区小山上総町 響流館1F Tel. 075-411-8483
Fax. 075-411-8146 https://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

大谷大学は、江戸時代の寛文5年(1665)、東本願寺に創設された学寮を前身とします。

その後、明治34年(1901)には、近代的な大学として「真宗大学」という名称で、東京巢鴨の地に開学されました。初代学監(学長)・清沢満之(1863~1903)は、真宗大学開学にあたり「本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、ことに仏教の中において浄土真宗の学場であります」と宣言しました。他の大学が近代的な諸学を求める中において、真宗

大学は宗教を中心とする大学として独自のあり方を築き上げました。そして、清沢満之の言葉を受け継ぎながら、大谷大学は仏教精神に基づいた人間教育を根幹にすえた教育・研究の歩みを重ねてきたのです。本展覧会では、清沢満之、満之が東京時代に開いた私塾浩々洞、そして真宗大学の東京開校という三つの側面から、大学の歴史と歩みを紹介いたします。

本学の創立に託された願い、本学が大切にしている理念の源に触れていただければ幸いです。

本学の創立に託された願い、本学が大切にしている理念の源に触れていただければ幸いです。

本学の創立に託された願い、本学が大切にしている理念の源に触れていただければ幸いです。

本学の創立に託された願い、本学が大切にしている理念の源に触れていただければ幸いです。

I 清沢満之

- 清沢満之肖像**

1幅 紙本石版 中村不折筆
明治時代・明治42年(1909) 大谷大学博物館蔵

清沢満之の肖像画。原画は明治から昭和にかけて活躍した洋画家の中村不折が描いた。また、若かりし日に満之より教育を受けた東本願寺第23代彰如(句仏)のユーモラスな歌「南瓜にも仏性あらばこの通り」が記されている。浩々洞が清沢七回忌に際して石版刷にして頒布した。

- 宗教哲学骸骨**

1冊 紙本印刷
明治時代・明治25年(1892) 大谷大学図書館蔵

清沢30歳の著書で、代表作の一つ。「宗教と学問」「有限無限」などの6章から成る。この当時、清沢はミニマム・ポシブル(最小限可能の生活)を実践していた。清沢のこの時期の号でもあり、書名にも付けられた「骸骨」には、余計なものをそぎ落として道を求め続ける清沢の姿勢がみてとれる。

- The Skeleton of the Philosophy of Religion (宗教哲学骸骨)**

1冊 紙本印刷
明治時代・明治26年(1893) 大谷大学図書館蔵

「宗教哲学骸骨」の英訳本。明治時代に活躍した「教談家」野口善四郎(復堂)訳。1893年のコロンビア世界大博覧会(於シカゴ)を機に、同地で万国宗教会議が行われ、そこに参加した野口は「世界の宗教(The Religion of the World)」という口頭発表の中で、普遍的な仏教思想の紹介書としてこの書を紹介した。

- 歎異抄**

2冊 紙本木版
江戸時代・元禄14年(1701) 大谷大学図書館蔵

親鸞の門弟唯円(ゆいえん)の著作とされる。前半は著者が親鸞より聞いた法語を記し、後半では当時行われていた宗義の異説を批判して、正しい信心に目覚めるよう勧めている。清沢は『歎異抄』と「エピクテタス語録」、「阿含経」を座右に置き、「余の三部経」と呼んで親しんだという。

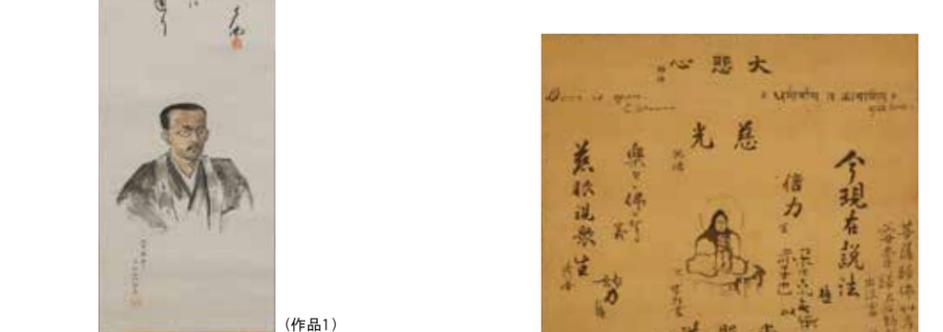
- 清沢満之書簡**
- 1幅 紙本墨書
明治時代・明治29年(1896) 大谷大学博物館蔵
- 宗門改革運動に邁進していた時期の清沢が、同志である清川円誠に宛てた書簡。当時、清沢が仏果園悟禪師の「碧巖録」などの禪書を精読していたことがわかる。翌10月には、大谷派革新を訴える雑誌「教界時言」を創刊している。

- 教界時言**

- 清沢満之墨跡**

- 浩々洞洞人寄書「師友相照」**

清沢と清沢のもとに集った若者たちが結成した私塾浩々洞。本品は清沢没後の記念に、洞人らによって作成されたと伝える寄書。洞人12名のほか、上部には清沢の次男即往による寄書もみられる。



(作品1)



(作品2)



(作品6)

- 臘扇記(影印本)**

2冊 原本：紙本墨書
原本：明治時代・明治31~32年(1898~1899)
大谷大学図書館蔵

明治31年(1898)8月15日から翌年4月5日までの清沢の日記の影印本。この時期、清沢はみずからを無用の者という意味で「臘扇」と号し、失意と煩累の中で日々の出来事とその時々に来来した思想や信念が吐露されている。

- 清沢満之墨跡**

1幅 紙本墨書 明治時代・明治31年(1898)
大谷大学博物館蔵

明治31年に清沢が揮毫した墨跡。『大無量寿経』の「重誓偈」より「開彼智慧眼 滅此昏盲闇 閉塞諸惡道 通達善趣門」の4句を書している。

- 浩々洞三羽鳥墨跡**

- 浩々洞三羽鳥墨跡**

3幅 紙本墨書
大正時代・大正2年(1913) 大谷大学博物館蔵

若くして亡くなった暁烏敏の妻房子のために、佐々木月樵・多田鼎・暁烏敏の3人が揮毫した書。清沢のもとに最初に集まった3人は「浩々洞の三羽鳥」と称された。

- 精神界**

3冊(141冊のうち) 紙本印刷
明治34(1901)~大正8年(1919) 大谷大学図書館蔵

仏教の真意をわかりやすい言葉で一般の人に伝えるため、暁烏敏の発案で浩々洞が刊行した雑誌。印刷を俳人の高浜虚子に相談し、表紙絵・カットを中村不折に依頼、表題「精神界」の三文字は中国唐代の書家である褚遂良の書から採字した。発刊の年10月には真宗大学が東京で開校されている。

- 精神講話**

1冊 紙本印刷
明治時代・明治36年(1903) 大谷大学図書館蔵

浩々洞で毎日曜日に、清沢ら洞人によって催された講話のうちの清沢の講話集。「仏による勇氣」は明治35年1月26日の講話で語られたもの。

- 仏教辞典**

1冊 紙本印刷
明治時代・明治42年(1909) 大谷大学図書館蔵

佐々木月樵を中心に浩々洞で編集・刊行した仏教辞典。見出し語は約2万、仏教用語のほか人名・地名などを収録し、独特な読み方に呉音を付し、コンパクトながら総合的な仏教辞典となっている。

- 真宗聖典**

1冊 紙本印刷
明治時代・明治45年(1912) 大谷大学図書館蔵

明治44年(1911)親鸞650回忌を機に、浩々洞で編集・刊行した聖典。大正年間に増補改版され、昭和4年(1929)には第98版に及んだ。本品は第14版(明治45年刊)。

- 清沢先生終焉記**(「精神界」4巻6号)

1冊 紙本印刷
明治時代・明治37年(1904) 大谷大学図書館蔵

清沢の最期を看取った清沢の侍者原子廣宣の日記。遺言を聞かれた清沢は「何にもない」という言葉を残した。『精神界』に掲載されたもので、清沢が自ら筆を執り、佐藤信次に宛てた端書きを付している。

- 我は此の如く如来を信ず**(我信念)

1葉(10葉のうち) 紙本インク書
明治時代・明治36年(1903) 大谷大学博物館蔵

清沢の絶筆。晩年の清沢の信仰がうかがえる好個の資料。「私に対する」「無限の慈悲、無限の智慧、無限の能力」の实在を信じるのが「我信念」であるとした。如来を信ずることにおいて、虚心平氣にこの世に生死することを得るのが清沢の精神主義である。

- 親鸞聖人御伝鈔講話**

1冊 紙本印刷
明治時代・明治44年(1911) 大谷大学図書館蔵

親鸞650回忌に際して浩々洞で刊行された『御伝鈔』に関する講話。『御伝鈔』は本願寺第3代覚如が著した『親鸞伝絵』から詞書を抜き出したもの。内容からは親鸞の真実に迫ろうとする気概がうかがえる。

- 清沢先生の教訓**

1冊 紙本印刷
大正時代・大正4年(1915) 大谷大学図書館蔵

浩々洞で編集・刊行した清沢の教訓書。清沢13回忌の記念として刊行された。浩々洞編「清沢満之全集」から、清沢の教訓となる100条をまとめたもの。

- 清沢先生の信仰**

1冊 紙本印刷
明治時代・明治42年(1909) 大谷大学図書館蔵

「我は此の如く如来を信ず(我信念)」に関する暁烏敏の講話集。清沢の7回忌に際し浩々洞が刊行した。清沢の東京大学時代以来の親友であり、清沢の改革運動に多大な協力をした沢柳政太郎(教育者・文部官僚)の序を付し、暁烏の6回にわたる講話を収録する。

- 清沢満之7回忌追悼会写真**

1枚 モノクロ写真
明治時代・明治42年(1909)
真宗総合研究所蔵

清沢満之7回忌追悼会に際しての記念写真。真宗大学講堂および浅草本願寺において3日間にわたり追悼会および講話の会が開かれた。背景には真宗大学の東京開学を記念して建立された「知進守退」碑(後に大谷大学構内に移設し正門横に現存)がみえる。